

# エレガンスの社会学

## その着こなしに理由アリ

文 中野香織

### 第7回



ゴードン・ブラウンのVゾーンは、お気に入りの色「アイスブルー」を効かせた爽やか系。ジョギングで(?)シエイプアップしたサルコジはフィットしたオーダースーツ姿。大柄な各国首脳陣の中であってフレッシュな印象 © Getty Images/AFL0

### 今

年5月にフランス第5共和制第6代大統領に就任した、ニコラ・サルコジ。世界のリーダーの中で、ファッション的観点から見て、今いちばん興味をそえられる方かもしれない。

ハンガリーからの移民の2世。たばこが嫌いでワインを含めて酒も飲まない。身長165センチ(私と同じだ)。ドイツのメルケル首相(女性)に会っても、前大統領シラクであればそうしたであろうような手に接吻のしぐさなどはせず、駆け寄って肩を抱く。なんかも、フランスの伝統的エリート特有の、美しき退廃交じりの優雅なゆとりみたいなものがない。いくら、過去との断絶が新大統領の売り物とはいえず。

でも、アメリカの「ヴァニティ・フェア」は、第68回のベストドレッサーに、中田英寿やレニー・クラヴァイツとともに、サルコジ大統領を選んだのである。選者の一人はこんな趣旨のコメントを寄せた。「サルコジ大統領は威勢がよくてロマンティックで、着こなしにユーモアのセンスがある」。

実は大統領就任以来、サルコジの装いは、常に賛否両論を浴びていた。エリゼ宮での大統領権限委譲式典では、ブラダのスーツだった。ちなみに妻セシリアもシャイニーなブラダのワンピースとオーブントウの靴、二人の娘たちはミウミュウ。ファッションビルからは絶賛の嵐だったのだが、「なぜフランス新大統領がイタリアのブランド? フランスにはデイオールもランバンもあるのに」という意見もちらほら。

また、6月のG8(主要国首脳会議)では他国首脳のスーツが紺一色の中、一人サルコジがライトグレーで存在感を發揮していた(スーツはイタリアの「ポリオリ」のビスポークらしい)。しかも足元はオールデンのタツセル付きシューズ! コンサバな政治家の装いに、意外なミスマッチ。これに好感を表明したジャーナリストがいた一方「上着の袖丈は長すぎるしポケットの位置も低すぎ。しかもオールデンのカジュアルシューズなど、フォーマルな装いにはありえない」という厳しい意見を言う目利きもいた。

そして極め付きは、ジョギングファッションである。つていうか、ジョギングという行為そのものが、パッシングの対象になった。「フランスの知的階級はスポーツを軽視してきたものだ」きちんとした保守階級はジョギングをしようなどとは夢にも思わない。前例のない自己宣伝の手段にすぎない。馬までびっくりさせる」などなど、さんざんな言われよう。膝丸出しの半ズボンとNYPDのTシャツ、というアメリカンな装いはなおさらのことである。しかし、大衆の思いはやや違っていたようで、NYPDのTシャツとリーボックの売り上げは上昇し、「ダニエ

## 英仏首脳ファッション戦術

ル・クレミュ」のポロシャツを着て走る姿が目撃されるや、同タイプのシャツがフランスで完売したと報じられた。

**ホ** べられるにせよ、けなされるにせよ、ファッションが話題になり続けるといえるのは、サルコジその人への関心が高いからにはほかならない。どーでもいい人は、いかに高価な服を着てたつて視界に入らない。ベストドレッサー賞受賞理由の「威勢がよくて」というのは、例えばパリ暴動に加わった若者を「社会のくず」呼ばわりして動じず、大統領に当選した直後に豪華ヨットでクルージングして野党から批判されても「何が問題なのか。私は逃げも隠れも謝りもしない」と堂々としていた態度などを含むのだろう。「ロマンティック」はいうまでもなく、ダブル不倫の果ての結婚などに象徴される恋愛体質のことか。フランス版小泉純一郎とたとえられるのも、わかる。

アメリカ好きで(だからアメリカの「ヴァニティ・フェア」にも愛される)、どこか憎めないオレ様ぶりから目が離せなくなるカリスマ性に、相通じるものを感じる。

**そ** のサルコジが政治スタイルの「お手本にするのが、BBCニュースによれば、イギリスの前首相トニー・ブレアなのだが、ではそのブレアの後を継いで、サルコジとほぼ時を同じくして英国首相になったゴードン・ブラウンはどうか。

ブレア政権のもとで10年間、堅実に財相を務め、英国を記録的な景気拡大に導いた実績をもつブラウンは、「髪はほざほざ、よれよれのスーツを着たスコットランドの思索家」と揶揄されていたほど地味だったものの、首相就任以来、**ぱりっといヌー**ージチェンジした。スーツはテイモ

シー・エヴェレストが担当している。このイメチェンはPR会社の幹部だった妻のサラの功績ともされているが(サラ自身も、中産階級のおばちゃん風のずんとしたファッションから、きりりとしたファーストレディーススタイルへと変貌を遂げている)、やはり基本的に「服より言葉」なブラウン首相。着るものは「鎧」と考え、それほどこだわりはもっていないようである。エヴェレストによれば「カジュアルとなれば、ジャケットを脱いでジャンパーに着替えるだけ」。フォーマルのドレスコードにも無関心だし、パブリック・スクールのオールドボーイ的趣味や、オクスブリッジのポートルースだのヘンリーレガッタだのといった伝統的紳士カルチュアも、どちらかといえば、嫌っているらしい。日本の男子も大好きなこの紳士カルチュアをテーマにしたファッションは、くしくも前ブレア首相のスーツを10年間作り続けてきたポール・スミスの今シーズンのテーマだったのだが。

そんなわけで、ファッションを語るうえでちと寂しいブラウンなのだが、政治的には「革新」と「継統」をともに操れる頼もしいやり手として評価が高い。パフォーマンズが鼻についていたブレアの後任としてはむしろ最適なのかも。ブレア流の魅力はサルコジが受け継いでくれそうだしね。

### Kaori Nakano

服飾師。人に会って話を聞き、そして書くのがライフワーク。UOMOが掲唱するエレガンスを、毎回人物を切り口にしてわかりやすくひもときます。著書に「モードの方程式」「着るものがない!」(ともに新報社)、「スーツの神話」(文春新書)など。